

地質-2 ギベオン鉄質隕石^{てつしついでんせき}

ギベオン鉄質隕石は、1836年にアフリカのナミビアのギベオンで最初に発見された隕石です。主に鉄とニッケル^{ごうきん}の合金から成っている鉄質隕石^{てつしついでんせき}は、切断しエッチング処理をすると、ウィドマンステッテン構造と呼ばれる線が交差したような特有の結晶模様^{けっしょうもよう}が現れます。このウィドマンステッテン構造は地球の鉄鉱石には見られない隕石特有の構造で、100万年をかけて成長するといわれています。この隕石の表面には窪み^{くぼ}がありますが、隕石の表面にあった融点^{ゆうてん}の低い物質が宇宙空間から地球に落下する際に地球の大気との摩擦^{まさつ}の熱により溶けて失われ、跡が残ったものです。

自然史展示室の標本は1983年にみつかったもので、24.5kgもあります。

